

ギリシア・ローマ劇場の舞台建築の平面についての基礎的考察

渡邊道治*

A Preliminary Study on the Plans of Stage Buildings of Greek and Roman Theaters by Michiharu WATANABE

(Received: September 30, 2011, Accepted: February 24, 2012)

Abstract

In this paper, through observing c.400 examples, the plans of the stage buildings of Greek and Roman theaters are grouped in seven types and the following four points are drawn out based on analyzing the plans from a point of view of planning and prospect of the stage building. (1) There were two main types of the stage building. One is a type only with proscaenium (or proskenion), the other is one with proscaenium (or proskenion) and other architectural elements at its both sides. (2) The former type was mainly constructed in ancient Greece and Asia Minor in Hellenistic period. (3) In the case of latter type, although a parascenium (or proskenion) was used in Greek-Hellenistic world, so-called Basilicas or hall-like rooms were incorporated in the stage building of Ancient Mediterranean World from late Republican period onward. (4) The Basilicas or hall-like rooms were introduced at first in Italy from second century B.C. and the type with them was established as one stage building type in Augustan age.

[1] 研究の目的

ギリシアからローマ時代に建設された劇場建築が現代劇場の原型となっていることは周知のことである。その劇場が古代地中海世界全体にわたって建設され、ローマ時代までにひとつの建築タイプとしての完成を見た。これらの劇場は基本的にオルケストラ、舞台建築、客席の3つの要素から構成されている。わずか3つの構成要素の組み合わせにすぎないが、劇場建築はきわめて豊かな建築意匠を持ち、かつ豊かな建築空間を備えたものとなった。すでに前稿において、客席の平面形式についてのあらたな分類の方法を提示し、その分類された平面形式ごとの特徴について簡潔なまとめを報告した^(註1)。そこで本稿では劇場を構成する要素である舞台建築の平面についてその形態の分類を新たに行い、それぞれの平面形式ごとの劇場の特徴を報告することを目的とする。

劇場の舞台建築についてはこれまで、個々の劇場についての研究、舞台建築のみに限った研究が数多くなされてきた^(註2)。とりわけ、舞台建築はその建築意匠の多様さや豊かさゆえにさまざまな観点から研究が進められてきた。それらの研究では地域や時代を限定して研究されることが多く、地域的特性が強調される成果が見られる。そこで本稿では、舞台建築の全体的な変遷を捉えるための第一歩として、まず古代地中海世界に現存する舞台建

*産業工学部建築学科教授

築の平面を簡素で明瞭な方法で分類することから始めることとする。

[2] 研究資料と分析の方法について

本稿では地中海を取り巻く地域に紀元前6世紀頃より西ローマ帝国が滅亡した5世紀までに建設され、その存在が確認できている約900例の劇場を対象とする。その中で舞台建築の平面がある程度判明するものは391例であった。しかし、劇場建築ではしばしば増改築や再建がなされる傾向が強く、それが数度におよぶこともある。その際に前身の舞台建築と同じ平面を踏襲する場合もあれば、全く異なる平面となることもある。そこで本稿では、増改築が行われていることが明白な場合はその度ごとにひとつの舞台建築と考え、その平面それぞれを分析対象とすることとした。このような考え方から、本稿では、取り扱う劇場数は391例であるが、分析対象とする舞台建築の事例数は422例となった。

この422例の舞台建築の建設された地域と建設年代について若干触れておきたい。まず、この分析対象資料の2/3はヨーロッパにあり(279例)、1/4は中東(110例)、残りの10%弱(34例)が北アフリカで、ヨーロッパの劇場の舞台建築の平面がより多く分かっている。さらにヨーロッパに残る舞台建築279例の中で、その約40%の115例はイタリアに、約30%の85例がギリシア

に、約 15%の 42 例がフランスに見られる。その他のヨーロッパの国々で舞台建築の平面がある程度判明するのは 5 例以下で、ドイツやイギリスでは皆無であった。一方、舞台建築の建設年代から見ると、紀元前 4 世紀から 4 世紀までの各時代で舞台建築の平面が確認できた (表 1)。この表に見られるように、2 世紀建設のものが比較的多いが、全体としては各世紀で建設された舞台建築を分析資料として拾い上げることができた。

このように本稿で分析対象とした舞台建築は地域的にはややヨーロッパに偏る傾向にあり、かつイタリア、トルコ、ギリシアの事例が多い。一方建設年代から見ると、1 世紀と 2 世紀の事例が多いものの、紀元前 4 世紀から 4 世紀までの各世紀の事例を分析できる資料の状況である。この地域そして建設年代についての分析対象資料の偏りは現存する劇場建築全体の傾向と一致するものであり、本稿での分析結果が分析対象資料の偏りに影響を受けるものではないことを示している (注 3)。

ここで、劇場の各部の名称で混乱を招かないように本稿での用語の使い方を述べておく。そもそも劇場の舞台を構成する建築物は実際にはいろいろな要素が含まれている。つまり、一般に用いる舞台すなわち演者が演じる高くなった部分、その背景をなす壁部分、その壁の背後や両側におかれる小部屋や通路などさまざまな構成要素がある。そこで本稿ではこうした舞台を構成する諸要素が一体となり客席の前に置かれた構築物全体を「舞台建築」と称することとする。次に舞台の背後の壁をギリシア語ではスケエネ、ラテン語ではスカエナ、ローマ劇場における背後の壁面のみをスカエナエ・フロンスと表記するが、本稿の目的から厳密な使い分けを必要としないので単にスケエネと表記する。最後に、プロスカエニウムは一般的にギリシア劇場と称される劇場の一段高くなった舞台を示すラテン語表記で、同じ意味を指すギリシア語表記はプロスケニオンであり、高くなった舞台の部分だけギリシア語でロゲイオンと表す。一般的にローマ劇場と称される劇場で同じ高くなった舞台はラテン語でプルピトゥム *pulpitum* と表現される。それぞれの用語には厳密な意味での若干の相違はあるものの、舞台建築の平面を大まかな分類を目的とする本稿では、スケエネの前に置かれる高くなった舞台を意味するこれらの用語をまとめて「高くなった舞台」と表記することとする。

本稿では、劇場の舞台建築の平面を図 1 に見られるようにまず A、B、C の 3 つに大きく分け、さらに B と C についてさらに 3 つずつに分けることで、合計 7 つの平面形式、すなわち A、B-1、B-2、B-3、C-1、C-2、C-3 に分類した。この平面形式の A、B、C の分類の観点は客席からの舞台建築の見え方、そして客席と舞台建築との関係

にもとづいている。すなわち、A の形式は舞台建築がスケエネのみの場合である。ここでは、上演される場であるオルケストラの背後に壁あるいは舞台背景、すなわちスケエネが立ち上がっている。

B の形式は プロスカエニウムあるいはプルピトゥムのみが舞台建築前面に広がる場合である。この場合、上演場所が必ずしもオルケストラとは限らずむしろ少し高くなった舞台となり、その背後に舞台背景としての壁が立ち上がり、観客の視線が高くなった舞台へ集中するような建築となる。この平面形式をプロスカエニウムあるいはプルピトゥムの付き方で 3 つに細分した。B-1 は舞台建築の全体幅にわたってプロスカエニウムあるいはプルピトゥムが付いている場合である。B-2 は舞台建築の全体幅以上の長さでプロスカエニウムあるいはプルピトゥムが付き、時には舞台建築の側面に周り込む場合である。B-3 は舞台建築の中央部のみに短い長さでプロスカエニウムあるいはプルピトゥムが付いている場合である。

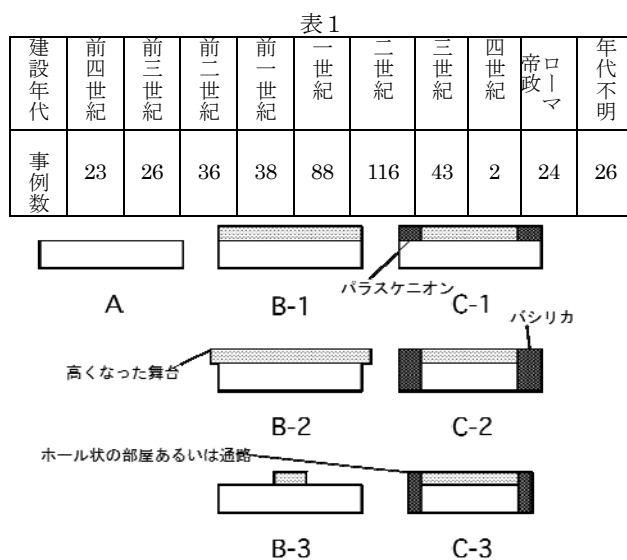


図 1

C の形式はプロスカエニウムあるいはプルピトゥムの両側に何らかの建築物 (たとえば部屋やホール、通路など) が設置される場合である。この形式では上演はほとんど高くなった舞台の上で行われ、舞台両側にある建築物の壁が客席と隙間なく繋がり、客席から見るとより舞台に視線が集中しやすく、かつ舞台中央の中心線が強調され、さらにより閉じた内部空間化した劇場が作り出されている。この平面形式をプロスカエニウムあるいはプルピトゥムの両側に置かれる建築物の種類で 3 つに細分した。すなわち、C-1 はそれらの両側にパラスケニオンが、C-2 はバシリカが、C-3 はホール状の部屋あるいは通路が付けられている場合である。バシリカとは、劇場のホワイエとしての役割を果たす部屋を称する。バシリカ

ではなくともホール状の部屋となっている場合もあれば、単なる通路となっている場合もある。図面のみでその区別をつけるのはかなり困難であるため、本稿では、シア一およびロッセットの著書^(註4)においてバシリカと表記されたもののみをバシリカとして扱いC-2に分類し、それ以外のホール状の部屋、小さな部屋、通路などは単なる部屋として取り扱いC-3に分類した。

[3] 舞台建築が「高くなった舞台」を持たない場合

これは舞台建築が明らかにスケーネのみから造られ、上演はオルケストラに限られた劇場を意味する(図1のA型、図2)。この平面形式に分けられたのは19例であった。その中の7例はこのタイプに属する可能性がきわめて高い場合であって確証があるわけではない。その結果(表2)から、以下の3点が読み取れる。まず、スケーネのみの舞台建築となる場合は現存状況から見てきわめて少数である。しかも紀元前の古い舞台建築においてとりわけ少ない。このことはこの平面形式が古い時代に少なかったということではなく、むしろ舞台建築が幾度も増改築を受けることで最初期の舞台建築の判明している例が少ないこと、また増改築を受けた舞台建築が「高くなった舞台」を備えていることが当然のことであったことを改めて如実に証明している。

次に、表2に見えるように、フランスからイスラエルにまでローマ帝国全体にスケーネのみの舞台建築は見い

表2

	前四世紀	前三世紀	前二世紀	前一世紀	ヘレニズム時代	一世紀	二世紀	三世紀	ローマ帝政	計
イスラエル								1		1
トルコ			1		1	1	1	1	1	6
ギリシア	1						1			3
マケドニア							2			2
イタリア			1	1						2
スイス							1			1
フランス							4			4
チュニジア							1			1
計	1	0	2	1	1	1	10	2	1	19

だせる。しかしながら、北アフリカではチュニジアに1例のみ、トルコよりさらに東側ではイスラエルに1例のみと、北アフリカとトルコを除く中近東ではほとんど見られない。つまり両者の地域では、舞台がスケーネだけというきわめて簡素な舞台建築はほとんど作られなかったといえる。

この19例の客席の平面を見ると analemata が舞台に

対して平行な場合が7例、斜めとなっている場合が5例、判断できない場合が7例であった。したがって、舞台建築がスケーネのみとなることと客席の analemata の配置、すなわち舞台建築と客席との繋がり方との間には特別な関係は見いだせない。

[4] 「高くなった舞台」のみを持つ場合

[4-1] 舞台建築の前面全体に「高くなった舞台」のみがある場合

この平面形式(図1のB-1型、図3)はスケーネの幅全体にわたってその前にプロスケニオンあるいはプロスカエニウムが置かれる場合と、プルピトゥムが置かる場合の2通りがあり、前者の場合は61例が、後者の場合15例がこれに相当する。これらの舞台建築は、客席側から見た場合、舞台建築の幅一杯にわたって「高くなった舞台」であるプロスカエニウムやプルピトゥムが造られているので、正面に見える建物すべてが舞台のためのものであり、その背景をなすものと認識される。

表3にプロスケニオンあるいはプロスカエニウムが舞台建築幅全体にわたって造られた事例を建設年代と国別にまとめた。この表からここで扱う平面形式を備えた舞台建築の特徴が今回いくつか明らかとなった。まず、この平面形式の現存遺構数が55例に達し、他の平面形式と比較してもかなり多い。つまり、舞台建築の平面形式としてはよく使われた方に属していたことが実証された。

次に、現存する地域を見ると、トルコ、ギリシア、イタリアに限定されており、しかもより厳密に検討するとトルコとギリシアの劇場にのみ使われた平面形式とほぼ断定されることが明らかとなった。表3に見るごとく、トルコには36例、ギリシアには17例、イタリアに2例であり、そのほとんどはトルコとギリシアに集中している。そしてイタリアの2例はシラクサーとガレアータの劇場である。前者はヘレニズム時代に改築された舞台建



図2 ストビStobiの舞台平面

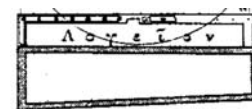


図3 マンティネアMantineaの舞台平面

築がこの平面形式に相当するのであるが、周知のごとくシラクサーはシチリアにおける代表的なギリシア植民都市であり、イタリア古来あるいはローマ文化ではなく明らかにギリシア・ヘレニズム文化を背景とした劇場であった。後者の舞台建築は紀元前1世紀末から1世紀初めに建設されたと見られるが、現存するプロスカエニウムの両端部の状況がはっきりしない。

さらにこの平面形式の舞台建築の建設年代について見ると、特徴的な点が浮かび上がってきた。ひとつは紀元前4世紀からローマ帝政前の期間に全体の約2/3(55例中の36例)が作られていることである。また、ギリシアとトルコでは建設時期に違いが見いだせる。つまり、ギリシアでは紀元前4世紀に最も多く、紀元前3世紀までにその半数ほどが建設されている。これに対し、トルコでは紀元前3世紀にから見いだせ、紀元前2世紀と紀元前1世紀までに約半数が建設されている。しかも1世紀や2世紀にも5例ずつ作られ、ギリシアに比べればやや多く見いだせる。つまり、建設の最盛期がギリシアでは紀元前4世紀から紀元前3世紀であるのに対し、トルコでは紀元前2世紀から紀元前1世紀にあり、しかもトルコでは紀元後にも比較的多く見いだせる。

ただし、ここで注意すべきことがある。それはトルコにおいて紀元前3世紀建設の舞台建築の例としてとりあげた3例はいずれもミレトスの劇場の舞台建築で、それらは紀元前3世紀の第3四半期、同世紀の第4四半期、さらに同じ第4四半期内で別の時期の3つの時期にわたり増改築がなされた際にスケエネの全体幅にわたってプロスカエニウムが付く平面を持っていた。しかし、この3つの事例はいずれも推定復元であり、現存遺構として明確に立証されているわけではない。したがって、トルコにおいてこの平面形式を持つ舞台建築の現存遺構として確実に取り上げられるのはアリンダやアッソスの劇場のように紀元前2世紀になってからである。

最後にこの平面形式の舞台建築の場合、図4に見られるようなプロスケニオンやプロスカエニウムの平面が中央部ではスケエネに平行であるが、両端部は端部に近づくほどスケエネにその前面が近づき、扁平な五角形状をなすものがかなり多く含まれていることを指摘しておきたい。両端部のみの奥行きが次第に狭くなる形式は今回の分析で36例確認できたが、その約2/3に当る21例が舞台建築全体幅にわたって「高くなった舞台」が付けられる平面であることが明らかとなった。特にトルコの劇場では37例中の15例がこの平面形式に相当した。

さらに注目すべきことは、ギリシアではエレクトリアの劇場に見られるように(図5)、「高くなった舞台」の両端部に斜め方向に斜路が付けられ、客席側から見るとトルコに見られたプロスカエニウムの両端部が狭くなるような見え方をする平面形式が5例見いだせることである。

プルピトゥムが舞台建築の幅全体にわたってその前面につけられた遺構は14例確認できた。事例数がきわめた少数であることはこの平面形式が例外的であり、後の項で見るように、プルピトゥムの両側には何らかの建築物が作られるのが一般的であったことが今回の分析で明確

になった。この15例を国別に見ると、トルコに7例、イタリアに4例、ギリシアに2例、リビアに1例と見いだせる地域が限定されていること、トルコにやや多く見出せることが明らかとなった。また、この平面形式は紀元前1世紀にポンペイの劇場の第2期の舞台建築のようにイタリアに最初に見いだされたが、イタリア以外の地では2世紀以降に建設されるようになったことも明らかとなった。

表3

	前四世紀	前三世紀	前二世紀	前一世紀	ヘレニズム時代	一世紀	二世紀	三世紀	四世紀	ローマ帝政	不明	計
ギリシア	8	4			2		1		1		1	17
トルコ		3	10 (4)	7 (3)	1	5 (3)	5 (3)	3 (1)		1 (1)	1	36 (15)
イタリア					1	1 (1)						2
計	8	7	10 (4)	7 (3)	4	6 (4)	6 (3)	3 (1)	1	1 (1)	2	55 (16)

()内はプロスカエニウムの両端部が斜めとなっている場合で、たとえばトルコでは36例中の15例がそれに相当することを意味する。



図4 ピナラ Pinara の舞台平面



図5 エレクトリア Eretria 舞台平面

[4-2] 舞台建築の前面幅以上に「高くなった舞台」が延びている場合

これは舞台建築の前に置かれる「高くなった舞台」がその幅以上に長くなっているような場合を指す(図1のB-2型)。つまり、客席から見るとプロスカエニウムが眼前に横長に延びていて、その幅よりも幅の狭いスケエネが「高くなった舞台」の背後に立ち上がっているのが見える場合である。

この平面形式の舞台建築を持つものはミレトスとプリエネのわずか2つの劇場でのみ見いだせ、劇場の舞台建築の平面としては例外中の例外といえるほどきわめて特異なものであったことが明らかとなった。プリエネの劇場に紀元前300年頃建設された舞台建築においては、約18.4mのスケエネ幅に対し、両側にそれぞれ1.2mほど突出したやや幅の広いプロスカエニウムが置かれている。

一方、ミレトスの劇場で紀元前3世紀の第2四半期に建設された舞台建築はスケーネ幅よりも若干幅広のプロスカエニウムが置かれていたと推定されている。この舞台建築は幾度も増改築を経てきたためにその推定復元が適切であるかとう疑問も若干残る

[4-3] 舞台建築の中央の一部分のみに「高くなった舞台」が配置される場合

この平面形式はヴァンデュイエ＝カプリー Vandeuil-Caply に見られるように (図6)、舞台建築の前に付く「高くなった舞台」の幅がオルケストラ直径そしてスケーネ幅よりかなり小さめで、その両側には何もないために、「高くなった舞台」がオルケストラ内に突出したような平面をなす。したがって、客席から見ればスケーネを背景にその中央部にやや小振りの「高くなった舞台」がオルケストラの中に飛び出して配置されているように見える (図1のB-3型)。

この平面形式に属するのは14例で、その中の12例はフランス、2例はルクセンブルクに見いだせた。しかもフランスの12例はすべて同国の中北部の都市の劇場においてであり、地中海沿岸の都市には見られない。次に14例の建設年代を見ると、1世紀に3例、2世紀に9例、3世紀とローマ帝政期に1例ずつで、1世紀に出現した後、2世紀に最も多く建設されている。以上のことから、この平面形式は中北部のフランスを中心とした地域に1世紀以降に建設されたきわめて特異な舞台建築であり、その実例も少数で、その他の古代地中海世界全域には全く見いだせないものであることが明らかとなった。

[5] 「高くなった舞台」の両側になんらかの建築物を持つ場合

[5-1] パラスケニオンを備えた場合

この平面形式は「高くなった舞台」の両端部にオルケストラ側にやや突出した翼屋をもつ舞台建築である (図1のC-1型、図7)。客席側から見るとスケーネの左右に翼屋を持つことで、舞台建築の立面における左右対称性と中心性が翼屋を持たない場合よりも強まり、左右を枠取られることで一段高くなった舞台への視線が集中しやすい効果を生んでいる。

この平面形式を持つ舞台建築は40例見いだせた (表4)。国別に見るとギリシアに17例、イタリアに19例、イラクに2例、ブルガリアとリビアに1例ずつであった。これで明らかのようにギリシアとイタリアの劇場にほぼ集中していることが鮮明となった。さらに建設年代から見ると、紀元前4世紀に8例、紀元前3世紀に11例、紀元前2世紀に7例見いだせ、その後、4世紀までの各世紀

にわたって建設されていたことが確認できた。それぞれの世紀に建設されていたものの、紀元前2世紀までに建設された事例の割合がかなり高いといえる。

表4

	イラク	ギリシア	ブルガリア	イタリア	リビア	計
前4世紀		3		5		8
前3世紀		8		2 (1)		10 (1)
前2世紀		4		(3)		4 (3)
前1世紀				1	1	2
ヘレニズム時代	1					1
1世紀		1		1 (2)		2 (2)
2世紀	1			3		4
3世紀			1			1
4世紀		1				1
ローマ帝政						
年代不明				1		1
計	2	17	1	13 (6)	1	34 (6)

() 内は、パラスケニオン前面が斜めとなっている事例数

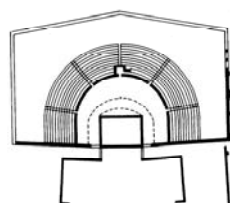


図6 ヴァンデュイエ＝カプリーの劇場平面

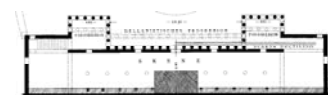


図7 アテネのディオニソスの劇場の舞台平面

地域的そして時代的な観点から概観すると、この平面形式が紀元前4世紀以降のギリシア・ヘレニズム時代の劇場で形成され広がったことが明白となった。なぜなら、ギリシアでは紀元前4世紀後半に建設されたアテネのディオニソス劇場のリュックルゴス時代の舞台建築 (図7) やエレクトリアの舞台建築など紀元前4世紀から紀元前3世紀にかけて多く確認でき、特に紀元前3世紀に最も多く見いだせた。一方イタリアでは19例中の16例が紀元前に建設され、しかも南イタリアとシチリアのギリシア植民都市に限定されている。それらはロークリやイアタスなどの舞台建築のように、ギリシア本土とほぼ同時期の紀元前4世紀から建設が始まった。また、残りの3例はヴィチエンツァ、イヴレア、ティヴォリといったローマ以北の都市においてであり、これらは2世紀になってから建設されものであったことが明らかとなった。

イタリア以外の地において散見される事例もすべてギリシア・ヘレニズム文化と深い関わりのある都市においてのみ建設されたものであった。たとえばイラクの2例はバビロンにアレクサンダー大王の征服後のヘレニズム時代に建設された劇場の舞台建築であり、それが2世紀に増改築を受けたものであった。リビアの劇場はギリシア植民都市であったキレーネに建設されたものであった。

次に明らかとなった点は、この平面形式を持って紀元

後に建設された舞台建築がほとんど紀元後に増改築された場合であって、それらが当初建設されたのは紀元前であった(11例中の7例)。したがって、もし増改築が当初の平面形式を踏襲したものであると想定すると今回の分析対象とした40例のほとんどが紀元前の舞台建築の平面形式であったことになるともいえる。

最後にパラスケニウムを備えた舞台建築の中で南イタリアとシチリアの劇場のみ見いだせる特異な平面が存在し、それらがきわめて限定された時期に作られていたことを指摘したい。それは、セジェスタの劇場に見えるように(図8)、パラスケニウムの前面がプロスケニオンに向かって斜めに仕上げられている平面形式である。この特徴を持った舞台建築はセジェスタ、イタイタス、サルノ、ポンペイの4都市の劇場においてのみ見いだせる。

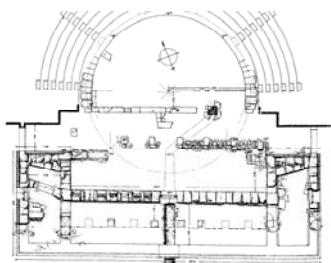


図8 セジェスタ Segesta の劇場平面

その中でイタイタスでは紀元前200年頃の舞台建築と改築されたアウグストゥス時代の舞台建築において、サルノでは紀元前100年頃の舞台建築とアウグストゥス時代に改築された舞台建築の2つの時期のものがそれぞれあるために、合計6例が見いだせたことになる。最古の事例はセジェスタの紀元前3世紀の中頃の建設で、残りは紀元前2世紀建設と、アウグストゥス時代に改築されたものである。この平面形式がイタリアにのみ見いだせる特異な平面形式としてしばしば取り上げられてきたが、今回の分析で改めてきわめて限定された特殊な平面形式であり、しかも南イタリアとシチリアの4都市のみに限定されていたことが確認できた。⁶⁾したがって、半円形に近い平面の客席端部から舞台を見やすくするための工夫ではないかといった機能的な観点からの解釈が果たして妥当であったのかという疑問が持ち上がってくる。もしそうした見え方の機能的解釈が妥当であればもっと多くの劇場に取り入れられても良いはずである。

[5-2] 「高くなった舞台」の両側にバシリカが配置される場合

この平面形式は「高くなった舞台」の両側に屋根の架かったホワイエの役割を果たす部屋としてのバシリカを

備えた舞台建築を指す(図1のC-2型)。今回の分析で86例が確認でき、平面形式の分類の中では最も事例数の多い形式であった。表5に見られるように、地域的に見ても古代地中海世界全域に分布していることが確認できた。地域的に見ても最も多いのがイタリアの32例で、次にフランスの11例、ギリシアの8例、アルジェリアの7例と続く。劇場の舞台建築の現存遺構数が比較的多いにも関わらずこの平面形式が少数なのがトルコであり、わずか3例であった。またトルコを除く中近東では4例のみでかなり少ない。つまり、この平面形式は古代地中海世界全域に分布しているものの、トルコ以東の地ではあまり用いられなかったことが今回実証された。

この平面形式の最古の事例はイタリアのピエトラアッポندانテの舞台建築(図9)においてであり、紀元前2世紀後期の建設と見られる。ここではプルピトゥムの両側に置かれた矩形平面の部屋、すなわちバシリカに木造屋根が架かり、舞台建築背後とパロドイに面してそれぞれひとつずつの出入り口が開いていた。バシリカはそれほど大きくなく、奥行きも analemata からスケーネまでの距離と同じであり、スケーネの位置を超えて奥行きが大きくなるものではなかった。この後、表5に見られるように、紀元前1世紀以降の各世紀で建設されていることが判明したが、とりわけ1世紀に25例、2世紀に38例とこの2世紀間に最も多く作られており、これは劇場建築数が最も多かった時期と同一である。すなわち、1-2世紀の最も劇場建築が盛んな時期に最も多く用いられた舞台建築の平面であったことが証明された。

次に、表5の結果から、時代の経過と共にこの平面形式が次第に地中海世界に広がっていたことが新たに確認できた。すなわち、紀元前2世紀から紀元前1世紀にはこの平面形式はイタリアのみであったが、アウグストゥス時代になるとフランス、スペインに広がり、1世紀末から2世紀の初め以降になると古代地中海世界全域に広がったことが明白に立証された。なぜなら、紀元前1世紀建設の7例はすべてイタリアであったのに対し、アウグストゥス時代になるとスペインのアチニポやバレオ・クラウディア、フランスのヴィエンナやアルル、クロアチアのイッサなどに見られ始めた。そして1世紀末から2世紀初めになると北アフリカの全域、そしてギリシアやトルコ、シリアなどの東地中海世界の各都市に建設されている。

ここでひとつ注目すべきことは、スペイン、フランス、クロアチア、アルバニアの事例はすべて地中海沿岸地域の都市の劇場のみであり、内陸部の都市の劇場ではこの平面形式の舞台建築を確認できないことである。特にフランスではそのほとんどの事例がナルボンヌ地方であっ

た。またスペインの7例中に4例、フランスの11例中の5例は1世紀後期以後に建設された舞台建築であるが、そのすべてが増改築や再建によるものであり、新たに建設された劇場のものではなかった。

表5

	前2世紀	前1世紀	1世紀	2世紀	3世紀	帝政	計
エジプト				1			1
リビア				1	2		3
チュニジア			1	4			5
アルジェリア		1		4	2	1	8
スペイン		1	4	2			7
フランス			6	5			11
オーストリア				1			1
イタリア	1	6	13	8	3		32
クロアチア			1				1
アルバニア			1				1
ギリシア				4	1	2	7
キプロス				1	1		2
トルコ				3			3
ヨルダン			1	1			2
シリア				2			2
計	1	7	27	37	9	3	86

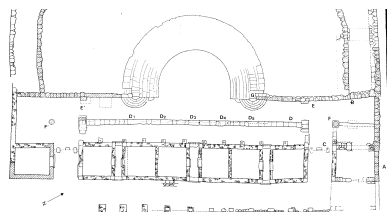


図9 ピエトラアッボンダンテ Pietrabbondante の劇場平面

この平面形式が、現存遺構で見える限り、当初イタリアに限定されていることから、この地で作り出された可能性はきわめて高い。特にこの平面形式が古代地中海世界で最も事例数が多いこと、通常ローマ劇場の典型例として取り上げられるローマのポンペイウス劇場、マルケッルス劇場、バルブス劇場に見いだせることもあり、舞台建築の代表的平面として捉えられてきた。しかし上記3つのローマの劇場の舞台建築の平面は、いずれもマール・プランによるもので考古学的資料にもとづかない推定復元であるため、紀元前1世紀前半から後期にかけてのローマにおける舞台建築がどのようなものであったかは再考の余地がある。

[5-3] 「高くなった舞台」の両側にホールもしくは通路が配置される場合

この平面形式は「高くなった舞台」の両側にホール状の部屋（大きさは問わない）あるいは細長い通路状の部屋がある場合を指す（図1のC-3型、図10）。今回の分析でこの平面形式に属するのは61例で、それを建設年代と国別に分類したのが表6である。分類するにあたり「高くなった舞台」の両側の部屋が部屋として確立されてい

たのかやや疑わしい場合も含めた。

この表6から、まずこの平面形式が古代地中海世界全域にわたって比較的広く使われていた事が実証された。なぜなら、舞台建築の平面形式として61例と事例数が多いこと、古代地中海全域にまんべんなく分布していることが明らかとなったからである。しかしながら、地域的に見るとイタリアに23例と全体の4割弱が集中し、それ以外の国においては5例以下ずつであった（イスラエルを除けば）。換言すれば、イタリア以外では少数の事例が散在しているといっても過言ではない。とりわけ劇場の舞台建築の遺構が比較的多く残るギリシアやトルコ、そして中近東ではその遺構数に比較してこの平面形式を持つ舞台建築が少ないことが明らかとなった。

ここでやや特殊な傾向を見せるイスラエルの7つの舞台建築について若干触れておきたい。カエサレ・ストラトスとセフォリスの舞台建築はそれぞれ紀元前4年以前と17年以前のおそらくアウグストゥス時代に最初建設されたが、フラウィウス時代と2世紀に増改築を受けている。これらの増改築後の平面形式はここで分類した形式であるが、当初の平面も同じであった確証はない。しかし、本稿ではその可能性が高いとして当初の平面も増改築後の平面も「高くなった舞台」の両側にホール状の部屋あるいは通路がある形式として分類した。同じく当初の平面と増改築後の平面がともにこの平面形式に分類されたものにエルサの劇場も追加される。この舞台建築は当初1世紀前半に造られ、セウエールス時代に再建されている。イスラエルの残りの2つの劇場の舞台建築はいずれも3世紀に建設されたものである。以上のことから、現存遺構で見える限り、イスラエルでこの平面形式を持つ舞台建築が確実に造られたと見なせるのはカエサレ・ストラトスの舞台建築が増改築されたフラウィウス時代以降である。

次に建設年代から見ると、紀元前2世紀から4世紀にかけてそれぞれの世紀で建設されていることが実証されたが、とりわけ1世紀に15例、2世紀に23例と最も多く見いだせ、これは古代における劇場の建設数が最も多かった時期と一致するものである（表6）。この平面形式を持つ舞台建築の現存最古の例は紀元前2世紀にカステルセッコに建設されたもので、プルピトゥムの両側にやや小ぶりの部屋が造られており、同じ世紀にテアーノに建設された劇場においても、確証はないが、部屋らしきものがプルピトゥムの両側に見える。次に見いだせるのはスペインのカディスの劇場の舞台建築で紀元前46-43年に建設されているが、プルピトゥムの両側にホールに近い部屋らしきものが見えるもののやや確実性に乏しい。したがって、カステルセッコの事例の後、「高くなっ

た舞台」の両側にホール状の部屋あるいは通路を持つような舞台建築が明らかに建設されたのはアウグストゥス時代以降のイタリア、スペイン、フランス、クロアチアなどの地中海沿岸の都市においてであったことが明らかとなった。さらにこの平面形式が北アフリカやトルコ、キプロスなどへ広がり、結果として古代地中海世界全体で見い出せるようになったのは2世紀になってからであったことも明白となった。

表6

	前二世紀	前一世紀	一世紀	二世紀	三世紀	四世紀	ローマ帝政	不明	計
エジプト						1			1
リビア				1					1
チュニジア					1		2		3
ポルトガル			1						1
スペイン		1	2	1					4
フランス			1	3			1		5
イタリア	2	1	7	11	1		1		23
クロアチア			1						1
ギリシア				1			3		4
トルコ				3	1		1		5
キプロス				1					1
イスラエル		1	3	1	1			1	7
ヨルダン				1					1
レバノン							1		1
シリア					3				3
計	2	3	15	23	7	1	9	1	61

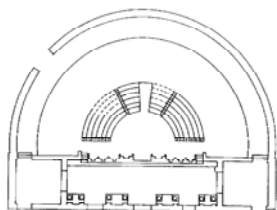


図10 キャステルガンドルフ Castelgandolf の劇場平面

現存遺構にもとづくこれまでの考察からプルピトゥムの両側にホール状の部屋あるいは通路が紀元前2世紀頃よりイタリアで生まれ、次第に部屋や通路として紀元前1世紀には整備され、アウグストゥス時代にはひとつの平面形式とし確立して古代地中海沿岸地域に少しずつ広がり始めたことがここで明らかとなった。ただし、プルピトゥムの両側に置かれたものがバシリカとなる場合と単なるホール状の部屋や通路となる場合が紀元前2世紀から紀元前1世紀末までのイタリアでどのような背景のもとで使い分けが生じたのかは今後の課題である。

[6]まとめ

本稿では古代地中海世界に現存する400例ほどの劇場の舞台建築を客席側からの見え方から7つの平面形式に分類し(図1)、それぞれの形式の特徴からどのような傾向を示しているかを検討した。その結果、以下のような

点が明らかとなった。

- (1) 舞台建築では、客席側から見た時に正面に「高くなった舞台」のみが広がる平面形式と、「高くなった舞台」の両側に建築物を作り左右対称性と中心性を強調した平面形式の2つが主流であった。
- (2) 前者のタイプはギリシアやトルコに地域としてはほとんど集中し、しかも紀元前4世紀から紀元前1世紀のヘレニズム時代にその多くが作られている。
- (3) 後者の場合、ギリシア・ヘレニズム文化圏ではパラスケニウムを用い、イタリア共和政からローマ帝政の時代の古代地中海世界ではバシリカやホール状の部屋あるいは通路を備えが舞台建築となっている。
- (4) バシリカ、ホール状の部屋や通路が舞台建築に付け加わり始めるのは紀元前2世紀のイタリアにおいてであり、アウグストゥス時代にはひとつの平面形式としてほぼ確立され、その後古代地中海世界に広がり始めた。

(注1) 拙稿、ギリシア・ローマ劇場の客席の平面形態について、東海大学産業工学部紀要、第3号、2011年3月、pp.19-26。

(注2) 劇場全般についてはM.Bieber, The History of the Greek and Roman Architecture, Princeton, 1961, Rossetto, P. C. et al. I teatri greci e romani, 3 vols, Roma, 1994, F. Sear, Roman Theater, New York, 2006. など。舞台建築についてはO. Puchstein, Die Griechische Bühne, Berlin, 1901, C. Courtois, Le Bâtiment de scène des théâtres d'Italia et de Sicilie, Louvain-la-Neuve, 1989 など。

(注3) 拙稿、ギリシア・ローマ時代の劇場建築について、日本建築学会九州支部研究報告、第39号、pp.529-532。

(注4) F.Sear, op., cit., Rossetto, P. C. et al., op., cit..

(注5) ポンペイとサルノではパラスケニウムの舞台側が斜めの壁となり、オルケストラ側は斜めではないので他の2都市の劇場とはやや異なる。

図版出典：図1 筆者作成／図2, J. B. Ward-Perkins, Roman Imperial Architecture, Penguin Books, 1990, Fig.164／図3, G. Fougères, Fouilles de Mantinée, in B. C. H., vol.14, 1890, Pl.17／図4, 7, 8, M. Bieber, op. cit., Fig.286, 250, 597／図5, 6, 10, op. cit., vol.3, p.481, vol.2, p.28, p.423／図9, C. Courtois, op. cit., Fig.39. より。

謝辞：本研究は平成23年度科研費基盤研究(C)、課題番号22560646により研究費助成を受けた成果の一部です。ここに記して深謝申し上げます。